

# 日中語のヴォイスの対照

—直接受動文の文法的特徴と意味機能—

## A Contrastive Study of Voice in Japanese and Chinese: Grammatical and Semantic Properties of the Direct Passive Sentence

趙 蓉 俊 子

ZHAO Rongjunzi

This paper provides a contrastive analysis of direct passive sentences in Japanese and Chinese. In both languages, direct passive sentences can be classified into two types: typical direct passive and impersonal direct passive. The investigation shows the following differences in the syntactic and semantic features of the direct passive sentence in the two languages. First, Japanese direct passive sentences are constructed by the addition of the suffix *-(r)are-ru* to the verb stem. In Chinese, direct passive sentences contain the aspectual particles *le*, *zhe*, or *guo*. In addition, Chinese direct passive sentences often require a verb-resultative (VR) construction based on the pragmatic condition. Second, the agent is introduced by the particles *ni*, *niyotte*, or *kara* in typical direct passive sentences of Japanese. In Chinese, on the other hand, the passive markers *bei* and *gei* may appear even when the agent is not explicit in the passive sentence. Third, the Japanese direct passive is divided into two semantic types: event prediction and property prediction. In contrast, Chinese direct passive sentences describe the results of the event. Fourth, the Chinese direct passive is less restrictive than that of Japanese in terms of the animacy of the subject and agent; Japanese direct passive is not natural when the subject is inanimate and the agent is animate. Last, this paper points out that there are seven major types of predicate verbs that appear in direct passive sentences in both Japanese and Chinese: thinking verbs, speech-act verbs, emotional verbs, creating verbs, physical contact verbs, movement verbs, and giving and receiving verbs.

キーワード：直接受動文、典型直接受動文、動作主なし受動文

Keywords: Direct passive, Typical direct passive, Impersonal direct passive

## 0 はじめに

ヴォイスとは、主語と述語動詞の表す動作との関係を示す文法カテゴリーであり、意味的には同一の事態を2つの異なった視点から述べるものである。本論は、日中語の直接受動文を対照するものである。

例えば、「先生が太郎を殴った」という出来事があった場合、その動作主は「先生」であり、動作対象は「太郎」である。動作主か動作対象かどちらを主語にし、どちらを目的語にするのかによって、例文 (1)(2) のような2つの文ができる。現代日本語の能動文では、元の述語動詞がそのまま使われる。一方、例文 (2) のように、述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接辞<sup>1</sup>が付くというかたちで受動文を表す。

- (1) 先生が太郎を殴った。
- (2) 太郎が先生に殴られた。

現代日本語と対照的に、現代中国語にも例文 (3)(4) のような受動文がある。中国語では語順によって文法関係を表し、述語動詞には語形変化が起こらない。中国語の能動文は、例文 (3) のように、受動マーカー“被”“让”“叫”“给”を用いない文であり、動作主を主語にし、動作対象を目的語にして表すのを能動文と呼ぶ。受動文は例文 (4) のように受動マーカーを用いず、動作対象を主語にし、動作主を目的語にして表す文である。

- (3) 老师 打 了 小王。  
(先生 殴る 了 1 王さん)  
「先生が王さんを殴った」
- (4) 小王 被 老师 打 了。  
(王さん PASS 先生 殴る 了 1+2)  
「王さんが先生に殴られた」

本稿では、例文 (2)(4) のような、元の能動文の目的語が表す人や物を主語として用いる文を、直接受動文と呼ぶ。日本語と中国語の直接受動文は、形式上では似ているが、意味上の相違点もある。本稿では、日中両言語の直接受動文の文法的な特徴と意味機能を明ら

---

<sup>1</sup> 日本語記述文法研究会 (2009: 214-215) では、受動文は、「動詞の語幹に接辞「-are-ru」(I型動詞の場合)や「-rare-ru」(II型動詞の場合)が付加した派生動詞によって表される。スル動詞及び「来る」は、次のように対応している。する(su-ru)-される(s-are-ru)、質問する(situmon-su-ru)-質問される(situmon-s-are-ru)、来る(ku-ru)-来られる(ko-rare-ru)」と指摘している。

かにする。

## 1 受動文に関する先行研究と問題点

本節では、日本語と中国語の受動文に関する先行研究を概観し、問題点を提出する。

### (i) 日本語の受動文に関する先行研究

庵 (2012: 99) では、「受身は直接受身と間接受身に大別されますが、その中間的な性格を持つものもあります」と指摘されている。「直接受動文」というのは影響の受け手を主語(ガ格)とする文である。一方、影響の与え手を主語(ガ格)とする文を能動文と言う。なお、庵 (2012: 99)は、直接受動文と能動文は客観的意味においては同じであると述べている。

- (5) a. 太郎が花子を殴った。 (能動文)  
b. 花子が太郎に殴られた。 (直接受動文)

(庵 2012: 99 例 (5))

例文 (6) が示すように、「間接受動文」は対応する能動文がない文であり、影響の受け手(「田中さん」)は出来事の外にいる。

- (6) a. 田中さんは事故で弟に死なれた。  
b. \* 田中さんの弟は事故で田中さんを死んだ。

(庵 2012: 101 例 (13)(13)')

庵 (2012: 103) によれば、「中間的な受身」とは、対応する能動文の目的語の一部が受動文の主語になっていることである。それに、このような「中間的な受身」が可能なのは、対応する能動文が「XがYのAをV」という構造で、Aが身体部分、持ち物、親族・知人などを表す名詞の場合に限られる。

- (7) a. 知らない男が太郎の頭を殴った。  
b. 太郎が知らない男に頭を殴られた。

(庵 2012: 103 例 (18)(18)')

本稿では、庵 (2012: 99-104) に基づき、「直接受動文」「中間受動文」「間接受動文」という用語を受け継ぎ、形式と意味の観点から日中語の直接受動文の特徴及び相違点を検討する。

寺村 (1982: 214-252) は、「直接受身」は主格に立つ名詞が、述語動詞の語幹によって表される動作の直接影響を受けるものであるという意味特徴、及び「X ガ Y ニ〜サレル」が、「Y ガ X ヲ(ニ)〜スル」という対応する能動表現をもつという構文の特徴をもつと指摘していた。「間接受身」は主格補語の受ける影響が間接的であり、対応する能動表現をもたない(「X ガ Y ニ(Z ヲ)〜サレル」を「Y ガ X ヲ(ニ) (Z ヲ)〜スル」とすると非文ができる)。また、「間接受身」は一般に「迷惑」な影響を受けることを表わすと主張されていた。なお、能動文の主語(動作主)が受動文では「に」「によって」「から」などどんなマーカーで示されるかも先行研究の関心の中心である。

(ii) 中国語の受動文に関する先行研究

中国語の受動文に関する先行研究は、形式的な観点から、主に統語的受動文と語彙的受動文を巡って考察してきた。例えば、04 記念行事委員会 (2014: 120-124) と高橋 (2017: 110-124) では、中国語の受動表現を“被”構文、意味的受動文及び語彙的受動文に分類すると指摘している。三宅 (2012: 184-185) では、前置詞“被”“让”“叫”“给”を使って構文として統語的に受動を表すものの他に、例文 (8) のように、述語動詞の語彙的な意味<sup>2</sup>によって受動文を構成するとして、広義の受動文の中に含まれるものもある。

三宅 (2012: 185) によれば、例文 (9) のように、構文上は受動のマーカーを使っていないが意味の上では受動表現となっているものもあるが、例文 (9a) は“被”を入れて“\*信被写好了”とは言えないし、表現レベルから言えば、主題とその陳述という関係で表している文であると述べている。本稿では、語彙的な意味によって受動文と無標識の受動文を検討の対象とはしない。なお、“被”、“叫”、“让”、“给”をそれぞれ“被”構文、“叫”構文、“让”構文と“给”構文と呼ぶ。

- (8) a. 他 挨 了 批评。→ b. 去年 这个 地区 遭 了 严重的 水灾。  
 (3SG 遭う 了 1 批判) (去年 DEM 地区 こうむる 了 1 甚大 GEN 水害)  
 「彼は叱られた」 「去年この地区は甚大な水害を被った」  
 (三宅 2012: 185 グロス は 筆者の加筆による)

- (9) a. 信 写好 了。→ b. 问题 解决 了。  
 (手紙 書く-R 了 1+2) (問題 解決 了 1+2)  
 「手紙は書きあげた」 「問題は解決した」

<sup>2</sup> 日本語では、能動文でありながら、動作対象を主語とする語彙的な意味によって受動文を構成する述語動詞もある。例えば、「教わる」「捕まる」などである。

(三宅 2012: 185 グロスに筆者の加筆による)

意味的な観点から、木村 (1992: 10) では、中国語の“被”構文は、主語に立つ対象が単に〈動作・行為〉を受けることを述べるだけでは成立し難く、対象が動作・行為の結果として被る何らかの〈影響〉を明示的に表現するか、或いは何らかのかたちでそれを強く含意するかたちのものでなければ成立し難いという性格を持っていると述べている。木村 (1992: 14) は、「主語に立つ事物にとって「望ましくない事態」を表すことが本務とされる。主語にとって望ましくない事態とは、つまるところ、主語に共感を寄せる表現者自身が望ましくなく感じる事態にほかならない」と指摘している。

なお、王还 (1983: 416) は、“被”構文の動作対象は必ず影響を受けると指摘し、“不如意”「物事が自分の思うようにならないこと」や“不愉快”「いやな感じがすること」といった動作を表すことが多い(“被”字句的动词, 直到现在, 大多数仍是表示不如意或不愉快的动作的)と述べている。

### (iii) 日本語と中国語の受動文の対照に関する先行研究

日中語の受動文に関する先行研究のうち、王亜新 (2016) と李藝 (2017) は、主に益岡 (1987) が提唱した「受影受動文」に基づき、対照研究を行ってきた。また、中島 (2007: 67-100) では、日本語の直接受動文と対応する中国語表現が5つに大別される。“被”受動文、他動詞能動文、無対応、自動詞文と語彙的受動文である。

上述の先行研究を見ると、日本語の受動文や直接受動文に関する先行研究が盛んに行われるようになってきたが、中国語の直接受動文に関する先行研究は、管見の限り明らかにされていない。そのうえ、このような受動文に関する研究の流れの中で、形式・意味の観点から、日中語の直接受動文についての対照研究は見られない。

## 2 日中語の直接受動文の形式的な特徴とその分類

直接受動文とは、元の能動文の目的語の表す人や物を主語として表れる受動文の一種である。本節では、形式的な観点から、日中両言語の直接受動文の相違点と下位分類を明らかにする。

### 2.1 日中語の直接受動文の形式的な特徴

本節では、日中語の直接受動文の形式的な相違点を述べる。まず、日本語の直接受動文の文法的特徴として、例文 (10b) が示すように、述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接

尾辞<sup>3</sup>を付加している。述語動詞の語幹に接尾辞を付加しないと、例文 (10c) のように、「田中が鈴木に殴られる」という事態にならない。したがって、日本語の直接受動文は述語動詞に接尾辞を付加しなければならないという形態的な条件がある。

- (10) a. 鈴木が田中を殴る(nagur-u).  
 b. 田中が鈴木に殴られる(nagur-are-ru).  
 c. \*田中が鈴木に殴る。

これに対し、例文 (11a) のように、中国語の直接受動文の組み立ては、基本的に「主語(動作対象)+“被”“让”“叫”“给”+目的語(動作主)+V(R・“了 1+2”など)」という構造を持っている。なお、例文 (11a) の“撞伤”「ぶつけてけがをした」という動補構造について、木村 (2012: 193-194) では、中国語の受動文では、動作のみを述べて結果を述べないと不自然に感じられるのに対し、動作と結果(Result)を併せて VR 構造を用いた方が適格であると示している。例文 (11b) の場合、文が終わらないような意味合いが取れ、複文の一部として現れるのが自然である。よって、中国語の直接受動文は、語用論的に結果補語があれば自然になる場合が多い。

- (11) a. 小张 被 汽车 撞伤 了。  
 (張さん PASS 車 ぶつける-R 了 1+2)  
 「張さんは車にぶつけられてけがをした」  
 b. 小张 被 汽车 撞 了，  
 (張さん PASS 車 ぶつける 了 1+2)  
 「張さんは車にぶつけられてしまって…」

また、文法的特徴として、例文 (12)-(14) の示すように、中国語の直接受動文は、助詞“了 1”“了 2”“了 1+2”、アスペクト助詞“着”、“过”を伴わないと文が成立しない場合が多い。

<sup>3</sup> 日本語記述文法研究会 (2010: 144) では、ヴォイスに関わる接尾辞は、述語動詞につくことで、その述語動詞がもつ文型を変える機能をもっている。ここでの接尾辞は文法的機能や意味を付け加えるのを中心的な機能とするものであると述べている。

<sup>4</sup> 木村 (1992: 11) では、「結果補語だけが対象への結果的影響を表す唯一の手段とみることは正しくない。動詞によっては、それ自身が語彙的な意味として結果の事態を内包しており...(中略)「影響含意型」の動詞(“杀「殺す」拆「取り壊す」淋「濡らす」骂「罵る」骗「騙す」批评「叱る」表扬「誉める」”)は、結果補語を伴わずに BEI 受身文の述語に立つことができる」と指摘している。

(12) a. \*小张 被 凶手 杀。  
(張さん PASS 犯人 殺す)  
「張さんが犯人に殺された」

b. 小张 被 凶手 杀 了。  
(張さん PASS 犯人 殺す 了 1+2)  
「張さんが犯人に殺された」

(13) a. \* 那 些 资料 被 王老师 保存。  
(DEM CL 資料 PASS 王先生 保存する)  
「それらの資料は王先生に保存されている」

b. 那 些 资料 被 王老师 保存 着。  
(DEM CL 資料 PASS 王先生 保存する ASP)  
「それらの資料は王先生に保存されている」

(14) a. \* 我 被 他 找 一 次。  
(1SG PASS 3SG 訪問する 一 CL)  
「私は彼に一回訪問されたことがあった」

b. 我 被 他 找 过 一 次。  
(1SG PASS 3SG 訪問する ASP 一 CL)  
「私は彼に一回訪問されたことがあった」

## 2.2 日中語の直接受動文の分類

本節では、日中語の直接受動文の下位分類を明らかにする。まず、直接受動文を2種類に分け、元の能動文の主語である動作主が現れるタイプを典型直接受動文、現れないタイプを動作主なし直接受動文とする。

第1に、典型直接受動文というのは、例文 (15b)(16b)(17b) のように、直接受動文のうち、動作主が現れるものからなる受動文のことである。例えば、例文 (15b) のように、典型直接受動文では元の能動文の主語が目的語になり、元の能動文の目的語が主語になる。形式的に元の能動文 (15a) の目的語「太郎」を主語になっている。なお、典型直接受動文

は動作主が助詞「に」、「によって」及び「から」<sup>5</sup>のいずれかで標示される。

(15) a. 次郎が太郎を殺した。

b. 太郎が次郎に殺された。

(16) a. 数学者ヨハン・ベルヌーイがロピタルの定理を発見した。

b. ロピタルの定理が数学者ヨハン・ベルヌーイによって発見された。

(17) a. 大衆がエリスを愛している。

b. エリスが大衆から愛されていた。

一方、中国語の直接受動文は、例文 (18b) のように、“被”“让”“叫”“给”を受動マーカ―として用いられている。“被”が書面語と口語で用いられるのに対し、“让”“叫”“给”は主に口語で使われる。例えば、例文 (18b) のように、典型直接受動文では元の能動文の主語が目的語になり、元の能動文の目的語が主語になる。形式的に元の能動文 (18a) の目的語「王さん」を主語になっている。

(18) a. 老师 踢 了 小王 一 脚。

(先生 蹴る 了 1 王さん 一 動量詞)

「先生が王さんにひと蹴りを蹴っていった」

b. 小王 {被/叫/让/给} 老师 踢 了 一 脚。

(王さん PASS 先生 蹴る 了 1 一 動量詞)

「王さんが先生にひと蹴りを蹴られた」

(19) 我 {被/叫/让/\*给} 自己 给 蠢哭 了。

(1SG PASS 自分 PREP 間が抜ける-泣く 了 1+2)

「私が自分の愚かさに泣けてきました」

第2に、動作主なし直接受動文とは、例文 (20b)(21b) のように、直接受動文のうち、動作主が現れないものからなる受動文のことである。能動文の例文 (20a)(21a) の動作主を明

<sup>5</sup> 日高 (2002: 1) によれば、創造的行為には「によって」、動作主に起点性の認められる動作では「から」が用いられ、「に」は創造的行為以外のほとんどの受動文で用いられる。



示しなくても成立する。また、元の能動文の動作主が表されないことも多い(例文 22)が、表されなくても動作主が含意される。それに、例文 (22) では、動作主をみちびく要素がない。よって、助詞「に」「によって」「から」は典型直接受動文で動作主をみちびく必要な要素である。

- (20) a. 日豪共同宣言を發表した。  
 b. 日豪共同宣言が發表された。

- (21) a. その法則を發見した。  
 b. その法則が發見された。

- (22) ブラジルではポルトガル語が話されている。 (山田 2004: 91)

これに対し、中国語の動作主なし直接受動文は、例文 (23)(24) のように、受動マーカ―“被”と“給”の後ろに動作主を置く必要がない場合にも文が成り立つが、“让”と“叫”の後ろに動作主がつく必要がある(例文(25b')(25c'))。なお、動作主なし直接受動文では動作主がなくても、受動マーカ―“被”と“給”が出てくるために、“被”と“給”は動作主を導く要素ではないと考えられる。

- (23) 研究成果 被 发表 了。  
 (研究成果 PASS 发表する 了 1+2)  
 「研究成果が發表された」

- (24) 小冬子 被 问住 了, ... (牛島 1985: 32)  
 (小冬子 PASS 問う-詰める 了 1+2)  
 「小冬子が問い詰められて...」

- (25) a. 腿 给 摔坏 了。 (CCL)  
 (足 PASS 落ちる-壊す 了 1+2)  
 「足を(落ちて)怪我してしまった」

- b. \*腿 让 摔坏 了。  
 b'. 腿 让 我 摔坏 了。  
 (足 PASS 1SG 落ちる-壊す 了 1+2)

「私は足を(落ちて)怪我してしまった」

- c. \*腿 叫 摔坏 了。  
 c'. 腿 叫 我 摔坏 了。  
 (足 PASS 1SG 落ちる-壊す 了 1+2)  
 「私は足を(落ちて)怪我してしまった」

以上の内容を[表 1]でまとめる。[表 1]は日中語における直接受動文の相違点を示すものである。

[表 1] 日中語における直接受動文の形式的な特徴と下位分類

	日本語	中国語
直接受動文の形式	主語(動作対象)+が+目的語(動作主) +に・によって・から+ V-(r)are-ru	主語(動作対象)+“被” “让”“叫”“给”+目的語 (動作主)+(“所”)+V(R・ “了 1+2”)など
直接受動文の特徴	述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」 という接尾辞を付加している (文法的特徴)	①助詞“了 1”“了 2”“了 1+2”、アスペクト助詞 “着”、“过”を伴う(文法的 特徴) ②結果補語があれば自然にな る場合が多い(語用的特徴)
動作主を導く要素	「に」「によって」「から」があ るか、或いはない(動作主なし直 接受動文)	“被”“让”“叫”“给”を受 動マーカ―として用いられて いる

[表 1]からわかるように、第 1 に、直接受動文の特徴に関して、日本語の場合は、述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接尾辞を付加しているという文法的特徴がある。一方、中国語の場合、まず、助詞“了 1”“了 2”“了 1+2”、アスペクト助詞“着”、“过”を伴うという文法的特徴がある。それに、結果補語があれば自然になるという語用的特徴もある。

第 2 に、日中語の直接受動文に 2 種類があり、それぞれは典型直接受動文と動作主なし直接受動文である。日本語の典型直接受動文では、助詞「に」「によって」「から」が出てくるために、「に」「によって」「から」は動作主を導く要素である。一方、中国語では、動

作主がなくても、受動マーカー“被”、“给”が出てくるために、“被”、“给”は動作主を導く要素ではない。

### 3 日中語の直接受動文の意味

本節では、意味の観点から、日中語の直接受動文の相違点を検討する。直接受動文は、動作対象が述語動詞の語幹によって表される動作の直接影響を受けるものであり、元の能動文と同じ客観的事実を表す。なお、事態の参加者の数が増えず2つ(2人)である。

#### 3.1 日中語の直接受動文の意味機能

日本語の間接受動文は迷惑の意味を表すが、例文 (26)(27)(28) のように、直接受動文はマイナスの意味を表すとは限らない。従って、日本語の直接受動文は述語動詞の語彙の意味によって、文全体の意味が決まる。例文 (26)(27) の直接受動文は「事態の動きや状態を描き出すもの」であり、例文 (28) の直接受動文は、「主語の性質を述べるもの」である<sup>6</sup>。

- (26) 彼にプロポーズされた。
- (27) 私は先生に{褒められた/叱られた}。
- (28) 電車で隣の人に「かっこいい」と言われた。

これに対し、中国語の直接受動文は例文 (29) のように、述語動詞の語彙の意味によって、文全体の意味が決まる場合がある。それに、例文 (30)(31) が示すように、動作対象は“桌子”「机」、「牛肉」「牛肉」という無情物の場合、文全体がマイナスの意味を表さなく、「机」「牛肉」が物理的な働きかけを受け、事態の結果を描写するものである。

- (29) 我 {被/叫/让/?给} 老师 {表扬/批评} 了。  
 (1SG PASS 先生 褒める/叱る 了 1+2)  
 「私は先生に褒められた/叱られた」
- (30) 桌子 {被/叫/让/\*给} 小李 踢倒 了。  
 (テーブル PASS 李さん 蹴る-倒す 了 1+2)  
 「テーブルは李さんに蹴り倒された」

<sup>6</sup> 「事態の動きや状態を描き出すもの」と「主語の性質を述べるもの」は日本語記述文法研究会 (2009: 225-226) を参照。

- (31) 牛肉 被 我 煮老 了。  
 (牛肉 PASS 1SG 煮る-(火加減)が過ぎる 了 1+2)  
 「牛肉は私に煮られすぎて非常に硬くなってしまった」

(杉村 1994: 197 グロスは筆者による加筆)

本節の内容を[表 2]でまとめる。[表 2]は日中語における直接受動文の意味機能を示すものである。

[表 2] 日中語の直接受動文の意味機能

	日本語	中国語
直接受動文の意味機能	述語動詞の語彙的意味によって、文全体の意味が決まる	
	①事態の動きや状態を描き出す ②主語の性質を述べる	事態の結果を描写する

[表 2]からわかるように、日本語と中国語の直接受動文は、述語動詞の語彙的意味によって、文全体の意味が決まる。一方、日本語の直接受動文には事態の動きや状態を描き出すものと主語の性質を述べるものという 2 種類があり、中国語には事態の結果を描写する場合がある。

### 3.2 動作主と動作対象が有情物・無情物の場合

本節では、日中語の動作主と動作対象が有情物・無情物である場合、直接受動文の成立条件を考察する。

第 1 に、庵 (2001: 105) では、能動文でも受動文でも、動作主と動作対象がどちらも人などの動作を行うことができる有情物の場合、動作主も動作対象も次の (32)(33) の順序で主語になりやすい。それに、第三者の中でも次のような順序がある。

- (32) 話し手>話の場にいる人>第三者  
 (33) 話し手が身近と感じる第三者>身近と感じない第三者>不問<sup>7</sup>(不特定)

例文 (34)(35) のように、動作主がこのような序列の中で最も下の方にある「身近と感じない第三者」や不特定の場合、動作主が能動文の主語にはなりにくく、動作対象を主語に

<sup>7</sup> 庵 (2001: 105) では、「不問というのは誰とは特に特定しない。一般的に」という意味であると指摘している。本論では、不特定という用語を用いる。

した直接受動文が選ばれやすくなる。例文 (34a)(35a) のように言えなくはないが、例文 (34b)(35b) の方が自然である。

- (34) a. ? 突然、通りがかりの人が私を呼び止めた。 (庵 2001: 105 例(1a))  
 b. 突然、(私は)通りがかりの人に呼び止められた。 (庵 2001: 105 例(1b))

- (35) a. ? 誰かあなたを愛していますか。 (庵 2001: 106 例(3a))  
 b. あなたは誰かに愛されていますか。 (庵 2001: 106 例(3b))

また、庵 (2001: 106) によれば、例文 (36)(37) のように、この序列の下位に位置する人が主語になり動作主が上位に位置する人である受動文では、単独の文では不自然に聞こえる。

- (36) a. (私は)通りがかりの人を呼び止めた。 (庵 2001: 105 例(2b))  
 b. \*通りがかりの人が私に呼び止められた。 (庵 2001: 105 例(2a))

- (37) a. 僕は真由子を愛している。 (庵 2001: 105 例(4b))  
 b. \*真由子は僕に愛されている。 (庵 2001: 105 例(4a))

一方、中国語の直接受動文と元の能動文は (38)(39) のように、動作主が (32)(33) のような序列の中で最も下の方にある「身近と感じない第三者」や不特定の場合、動作主が能動文の主語にはなりにくいという条件がない。

- (38) a. 路过 的 人 突然 叫住 了 我。  
 (通りがかり DEM 人 突然 呼ぶ-止める 了 1 1SG)  
 「通りがかりの人が突然私を呼び止めた」

- b. 我 突然 被 路过 的 人 叫住 了。  
 (1SG 突然 PASS 通りがかり DEM 人 呼ぶ-止める 了 1+2)  
 「私は突然、通りがかりの人に呼び止められた」

- (39) a. 谁 爱着 你 呢?  
 (誰 愛する-ASP 2SG 助詞)  
 「誰かがあなたを愛していますか」

- b. 你 被 谁 爱着 呢?  
(2SG PASS 誰 愛する-ASP 助詞)  
「あなたは誰かに愛されていますか」

それに、中国語は (32)(33) のような序列の下位に位置する人が主語になり動作主が上位に位置する人である直接受動文は、例文 (40)(41) のように自然である。

- (40) a. 我 叫住 了 路过 的 人。  
(1SG 呼ぶ-止める 了<sub>1</sub> 通りがかり DEM 人)  
「私は通りがかりの人を呼び止めた」

- b. 路过 的 人 被 我 叫住 了。  
(通りがかり DEM 人 PASS 1SG 呼ぶ-止める 了<sub>1+2</sub>)  
「通りがかりの人が私に呼び止められた」

- (41) a. 我 宠着 小刘。  
(1SG 甘やかす-ASP 劉さん)  
「私は劉さんを甘やかしている」

- b. 小刘 被 我 宠着。  
(劉さん PASS 1SG 甘やかす-ASP)  
「劉さんは私に甘やかされている」

第2に、庵 (2001: 107) によれば、例文 (42b)(43b) のように、動作主が人などの有情物で、動作対象がものなどの無情物の場合、動作主が主語になる。動作対象を主語にした受動文は、特定の表現意図をねらった場合を除いて一般的ではないと述べている。また、この場合、例文 (42a)(43a) のように元の能動文でいう。

- (42) a. 私はその木を切り倒した。 (庵 2001: 107 例(3'))  
b. \* その木は私 {に/によって} 切り倒された。 (庵 2001: 107 例(3))
- (43) a. 子どもがステレオを壊した。 (庵 2001: 107 例(4'))  
b. \* ステレオが子ども {に/によって} 壊された。 (庵 2001: 107 例(4))

これに対し、中国語の場合、例文 (44)(45) のように、動作主が人などの有情物で、動作対象がものなどの無情物の場合、動作主が主語になる。しかしながら、動作対象を主語にした受動文と元の能動文の両方が成り立つ。

(44) a. 我 砍倒 了 那 棵 树。

(1SG 切る-倒す 了<sub>1</sub> DEM CL 木)

「私はその木を切り倒した」

b. 那 棵 树 被 我 砍倒 了。

(DEM CL 木 PASS 1SG 切る-倒す 了<sub>1+2</sub>)

「その木は私に切り倒された」

(45) a. 孩子 弄坏 了 音箱。

(子ども いじる-壊す 了<sub>1</sub> ステレオ)

「子どもがステレオを壊した」

b. 音箱 被 孩子 弄坏 了。

(ステレオ PASS 子ども いじる-壊す 了<sub>1</sub>)

「ステレオが子どもに壊された」

第3に、庵 (2001: 108) では、現象文<sup>8</sup>のように文全体が新情報の場合、動作主が不特定であれば、無情物を主語にした直接受動文が使われる。例文 (46b) の場合、動作主が定である場合、直接受動文は使いにくく感じられる。なお、このような表現意図を持つ場合、動作主に注目した元の能動文の (46c) が自然である。しかしながら、例文 (46a) のように動作主が不特定の場合には直接受動文が用いられる。

(46) a. 公園の木が何者かによって切り倒された。

b. ? 公園の木が {市役所の職員/その木のせいで日が当たらなくて困っていた田中さん} によって切り倒された。

c. {市役所の職員/その木のせいで日が当たらなくて困っていた田中さん} が公園の木を切り倒した。

<sup>8</sup> 庵 (2001: 108) により、現象文とは文全体を新しい情報として捉えて聞き手に伝える表現であると示している。

(庵 2001: 108 例(5))

これに対し、中国語は例文 (47a) のように、動作主が不特定の場合には直接受動文が用いられる。例文 (47b)(47b')(47c)(47c') のいれずも元の能動文と直接受動文は成り立つ。

(47) a. 公園 的 树 被 什么人 砍倒 了。

(公園 GEN 木 PASS 何者 切る-倒す 了 1+2)

「公園の木が何者かによって切り倒された」

b. 市政府 的 职员 砍倒 了 树。

(市役所 GEN 職員 切る-倒す 了 1 木)

「市役所の職員が公園の木を切り倒した」

b'. 公園 的 树 被 市政府 的 职员 砍倒 了。

(公園 GEN 木 PASS 市役所 GEN 職員 切る-倒す 了 1+2)

「公園の木が市役所の職員によって切り倒された」

c. 因为 公园 的 树 而 日晒 不足 的 小王 砍倒 了 树。

(PREP 公園 GEN 木 接続詞 日差し 足りない GEN 王さん 切る-倒す 了 1 木)

「その木のせいで日が当たらなくて困っていた田中さんが公園の木を切り倒した」

c'. 公园 的 树 被 因 树 的 遮挡

(公園 GEN 木 PASS PREP 木 GEN 遮り止める

而 日晒 不足 的 小王 砍倒 了。

接続詞 日差し 足りない GEN 王さん 切る-倒す 了 1+2)

「公園の木がその木のせいで日が当たらなかった田中さんによって切り倒された」

本節の内容を[表 3]でまとめる。[表 3]は日中語における直接受動文は、動作主と動作対象が有情物・無情物である場合の成立条件を示すものである。



[表3] 日中語の直接受動文が動作主と動作対象が有情物・無情物である場合の成立条件

	日本語	中国語
①動作主と動作対象がどちらも有情物	①話し手>話の場にいる人>第三者 ②話し手が身近と感じる第三者>身近と感じない第三者>不特定	条件なし
②動作主が有情物で動作対象が無情物	動作対象を主語にした受動文は、特定の表現意図をねらった場合を除いて一般的ではない	動作対象を主語にした受動文と元の能動文の両方が成り立つ
③動作主が定・不定	動作主が定である場合、直接受動文は使いにくい	動作主が定・不特定の場合、元の能動文と直接受動文が成り立つ

[表3]からわかるように、動作主と動作対象が有情物・無情物である場合、中国語の直接受動文と元の能動文の成立条件は日本語の直接受動文より少ないと見られる。

### 3.3 日中語の直接受動文の動詞種類

本節では、日中語の直接受動文の動詞分類を検討する。直接受動文においてよく出てくる述語動詞は、主に7種類がある。

第1に、工藤 (1995: 76) を参照し、「思う」「考える」「わかる」「信じる」といった動詞を「思考動詞」と呼ぶ。例文 (48) のように、日本語の直接受動文は「わかる」という思考動詞からは作りにくい。中国語の“被(为)...所”構文は“知晓”「わかる」という思考動詞からは成り立つ。一方、例文 (49) の「思う」、「认成」「思う」という思考動詞は日中語の直接受動文で用いられる。

(48) a. \* 地方の交通事情は東京の人にはわからない。 (庵他 2000: 365 例文 (7))

- b. 地区 的 交通事宜 被 东京 的 人们 所 知晓。  
 (地方 DEM 交通事情 PASS 東京 DEM 人々 GEN わかる)  
 「地方の交通事情は東京の人にはわからない」

(49) a. 鈴木は田中を危ない人に思われた。

b. 他 被 她 认成 危险的 人。

(3SG PASS 3SG 思う 危ない DEM 人)

「彼は彼女を危ない人に思われた」

第2に、「言う」「話す」「呼ぶ」という「人の言語活動動詞」(工藤 (1995: 76)) の述語動詞もある。日本語記述文法研究会 (2009: 226) によれば、例文 (51) のような直接受動文は、主語の表す物の評価や永続的な特徴などが述べられるものである。

(50) 同じことを私はだれかに言われた記憶がある。 (日本語記述文法研究会 2009: 227)

(51) ブラジルでは、ポルトガル語が話されている。 (日本語記述文法研究会 2009: 226)

(52) 那儿 {被/\*叫/\*让/\*给} 人 叫做 “北京 的 城市 名片”。

(あそこ PASS 人 呼ぶ 北京 GEN 都市 名刺)

「あそこは「北京の街の顔」と呼ばれています」

第3に、日中語の直接受動文は、動作対象は動作主から動作を受ける場合とは限らなく、感情を受ける場合もある。工藤 (1995: 76) を参考し、「恨む」「憎む」「喜ぶ」といった動詞を「感情動詞」と呼ぶ。中国語では、例文 (54) のように、“被(为)…所”という形で表す。李宝贵 (2005: 273) では、“被(为)…所”という構造の中で、“被”は動作主を導き、主語は動作対象となる。また、“所”の後ろに他の成分をつけられなく、二音節動詞の前に置かれる“所”は省略できる一方で、単音節動詞の前に置かれる“所”は省略できないと論じられている。なお、白晓红・赵卫 (2007: 148) によると、“被(为)…所”構文は古典中国語が現代中国語の中に生き残っているタイプの受動表現であり、主として書面語に用いられるものであると示し、“被”と“所”は同時に現れることで、受動化をより強く感じられると述べている。

(53) a. あなたはきっと誰かに憎まれているでしょう。

b. 正直さはどんな人にも好まれる。

(54) 他 {被/\*叫/\*让/\*给} 那 个 漂亮姑娘 所 吸引。

(3SG PASS DEM CL 綺麗な女の子 GEN 引きつける)

「彼がああ綺麗な女の子の魅力に惹きつけられた」

第4に、作成動詞は、述語動詞が表す作成行為によって生み出された物を直接受動文の動作対象となるものである。述語動詞が「書く」「作る」「建てる」という作成動詞の場合、助詞「に」を用いなく「によって」で表す。例文 (56b)(57b) のように、中国語の場合、“被”“叫”“让”“给”構文のいずれも使われる。

(55) この記事が池上彰 {によって/\*に} 書かれた。

(56) 这 些 饺子 {被/叫/让/给} 他 包完 了。  
(DEM CL 餃子 PASS 3SG 作る-R 了 1+2)  
「これらの餃子が彼によって作られた」

(57) a. 这 个 建筑 {被/叫/让/给} 他 建成 了。  
(DEM CL 建物 PASS 3SG 建てる-R 了 1+2)  
「この建物が彼によって建てられた」

第5に、日中語には「殴る」「蹴る」「殺す」「噛みつく」「触る」という動詞を物理的・身体的接触を表す動詞がある。

(58) a. 我 {被/叫/让/\*给} 小狗 咬 了。  
(1SG PASS 子犬 噛みつく 了 1+2)  
「私が子犬に噛みつかれてしまった」

b. 私が誰かに蹴られてしまった。

第6に、具体物の移動動詞「送る」「渡す」「追いかける」と抽象物の移動動詞「断る」「話す」「教える」「伝える」といった述語動詞は日中語の直接受動文で使われている。

(59) a. このプレゼントが劉さんから贈られた。  
b. この提案が学長先生から伝えられた。

(60) a. 快递 {被/\*叫/\*让/\*给} 送走 了<sup>9</sup>。  
 (速達 PASS 送る—去る 了 1+2)  
 「速達が送られた」

b. 你 的 信息 已经 {被/\*叫/\*让/\*给} 传达到 了。  
 (2SG DEM メッセージ もう PASS 伝える—着く 了 1+2)  
 「メッセージはもう伝えられた」

第7に、授受動詞に関しては、庵 (2001: 103-104) では、受け手を主語にした直接受動文にできる述語動詞は (61) であり、受け手を主語にした直接受動文にできない述語動詞は (62) である。

- (61) 与える、授与する、渡す、贈る…  
 (62) 貸す、売る、やる、くれる、送る…

なお、例文 (63)(64) のように、主語の「私」が迷惑していると解釈される間接受動文である。

- (63) # 神谷に車を売られた。  
 (64) #<sup>0</sup> 私は不動産屋からプレゼントを送られた。

これに対し、中国語の授受動詞は (67)(68) のように、受け手を主語にした直接受動文にできる述語動詞は (65) であり、特に二音節の述語動詞([+授与])が多いと見られる。それに、受け手を主語にした直接受動文にできない述語動詞は (66) であり、単音節の述語動詞が多い。

- (65) “授予”「授与する」、 “给予”「優待する」、 “赠予”「贈与する」、 “赋予”「賦与する」、  
 “赐予”「賜る」

<sup>9</sup> この文は、動作主が出てくる場合、例えば、“快递被小李给送走了”という“被…给”という形でも成立する。李宝贵 (2005: 273) によれば、この“被…给”構造では、“给”の有無は、文の成立には影響しないと説明している。

<sup>10</sup> 庵他 (2001) により、「#」という記号は「その例文(または例文の一部)が文法的には正しくても意図した表現の意味とは異なる場合に用います」と述べている。

(66) “给”「与える」、 “买”「買う」、 “卖”「売る」、 “送”「贈る」、 “交”「渡す」、 “付”「授ける」

(67) 小王 {被/\*叫/让/\*给} 单位 赐予 了 “先进个人” 称号。  
 (王さん PASS 勤め先 授与する 了1 先進的人物 肩書き)  
 「王さんは勤め先に「先進的人物」という肩書きを授与された」

(68) \* 我 {被/叫/让/给} 小王 卖 了 一 套 房子。  
 (1SG PASS 王さん 売る 了1 一 CL 家屋)  
 「私は王さんに一軒の家屋を売られてしまった」

日中語の直接受動文で出てくる述語動詞の種類と構文の種類を[表4]で表す。

[表4] 日中語の直接受動文で出てくる述語動詞の種類と構文の種類

	日本語の直接受動文(助詞の種類)	中国語の直接受動文	
①思考動詞	に	“被” “被…所” 構文	○
		“叫” “让” “给” 構文	×
②人の言語活動動詞	に	“被” 構文	○
		“叫” “让” “给” 構文	×
③感情動詞	に、から	“被” “被(为)…所” 構文	○
		“叫” “让” “给” 構文	×
④作成動詞	によって	“被” “叫” “让” “给” 構文	○
⑤物理的・身体的接触を表す動詞	に	“被” “叫” “让” 構文	○
		“给” 構文	×
⑥移動動詞	から	“被” 構文	○
		“叫” “让” “给” 構文	×
⑦授受動詞	から	“被” “让” 構文	○
		“叫” “给” 構文	×

[表4]からわかるように、日中語の直接受動文で出てくる述語動詞の種類は、主に7種類がある。それぞれは、思考動詞、人の言語活動動詞、感情動詞、作成動詞、物理的・身体的接触を表す動詞、移動動詞と授受動詞である。

#### 4 まとめ

まず、形式の観点から、第1に、日本語の直接受動文は、述語動詞の語幹に「-(r)are-ru」という接尾辞を付加しているという文法的特徴がある。一方、中国語の場合、まず、助詞“了1”“了2”“了1+2”、アスペクト助詞“着”、“过”を伴うという文法的特徴がある。それに、結果補語があれば自然になるという語用的特徴もある。

第2に、日中語の直接受動文に2種類があり、それぞれは典型直接受動文と動作主なし直接受動文である。日本語の典型直接受動文では、助詞「に」「によって」「から」が出てくるために、「に」「によって」「から」は動作主を導く要素である。一方、中国語では、動作主がなくても、受動マーカー“被”、“给”が出てくるために、“被”、“给”は動作主を導く要素ではない。

そして、意味の観点から、第1に、日本語の直接受動文には事態の動きや状態を描き出すものと主語の性質を述べるものという2種類があり、中国語の直接受動文には事態の結果を描写する場合がある。

第2に、動作主と動作対象が有情物・無情物の場合、中国語の直接受動文と元の能動文の成立条件は日本語の直接受動文より少ないと見られる。具体的には、まず、動作主も動作対象のどちらも有情物の場合、日本語の直接受動文では以下のような条件がある：i) 話し手>話の場にいる人>第三者 ii) 話し手が身近と感じる第三者>身近と感じない第三者>不特定。一方、中国語の直接受動文になる条件がない。また、動作主が有情物であり、動作対象が無情物の場合、日本語の動作対象を主語にした受動文は、特定の表現意図をねらった場合を除いて一般的ではない。これに対し、中国語では動作対象を主語にした受動文と元の能動文の両方が成り立つ。最後に、動作主が不特定であれば、無情物を主語にした直接受動文が使われる場合、日本語では、動作主が定である場合、直接受動文は使いにくい。一方、中国語では、動作主が定・不特定の場、元の能動文と直接受動文が成り立つ。

第3に、日中語の直接受動文で出てくる述語動詞の種類は、主に7種類がある。それぞれは、思考動詞、人の言語活動動詞、感情動詞、作成動詞、物理的・身体的接触を表す動詞、移動動詞と授受動詞である。日本語の直接受動文では、助詞によって、述語動詞が異なる。1つ目は、助詞が「に」である場合、文中でよく現れるのは思考動詞、人の言語活動動詞、感情動詞、物理的・身体的接触を表す動詞である。2つ目は、助詞が「から」の場合、感情動詞、移動動詞と授受動詞が現れる。3つ目は、助詞「によって」の場合、作成動詞が出てくる。これに対し、中国語の直接受動文の場合、思考動詞は“被”“被…所”構文の中で現れ、人の言語活動動詞は“被”構文で使われる。また、感情動詞は“被”“被(为)…所”構文で用いられ、作成動詞は“被”“叫”“让”“给”構文のいずれも使われる。それに、物理的・身体的接触を表す動詞は、“被”“叫”“让”構文で用いられる。移動動詞は、

“被”構文でしか使われない。最後に、授受動詞は主に“被”“让”構文で現れる。

## 出典

本稿において使用されている例文の中では、出典が明示されていない例文は筆者の作例である。コーパス資料として、次の2つを用いた。

BCCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

CCL <北京大学中国语言学研究中心>(『現代中国語コーパス』)

## 略語

- ASP アスペクト助詞
- CL 助数詞
- DEM 指示詞
- GEN 構造助詞“的”「の」と“所”
- PASS 受動マーカー“被”“让”“叫”“给”
- PREP 前置詞
- R 中国語の結果補語
- V 述語動詞
- 1SG 一人称単数
- 2SG 二人称単数
- 3SG 三人称単数
- 了1 完了助詞(動詞の後に置き、動作行為の完成或いは実現を表す)
- 了2 文末助詞(事柄の完成や新しい事態の発生を確認する働きをする)
- 了1+2 完了助詞、文末助詞(動詞或いは動詞フレーズが文末にくる場合)

## 日本語の参考文献

- 庵 功雄・高梨 信乃・中西 久実子・山田 敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 庵 功雄・高梨 信乃・中西 久実子・山田 敏弘 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 庵 功雄 (2012) 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える 第2版』スリーエーネットワーク.

- 牛島 徳次 (1985) 「中国語の受動表現」『日本語学』4.明治書院. 24-34.
- 王 亜新 (2016) 「日本語と中国語の受動文に見られる類似点と相違点」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第18号.41-63.
- 木村 英樹 (1992) 「BEI 受身文の意味と構造」『中国語』6.内山書店.10-15.
- 木村 英樹 (2012) 『中国語文法の意味とカタチ—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』白帝社.
- 工藤 真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.
- 杉村 博文 (1994) 『中国語文法教室』大修館書店.
- 04 記念行事委員会 (編)(2014) 『21世紀言語学研究: 鈴木康之教授古稀記念論集』白帝社.
- 高橋 弥守彦 (2017) 『中日対照言語学概論 —その発想と表現—』日本橋報社.
- 寺村 秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版.
- 中島 悦子 (2007) 『日中対照研究 ヴォイス—自・他の対応・受身・使役・可能・自発—』おうふう.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2009) 『現代日本語文法 2 第3部 格と構文 第4部 ヴォイス』くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会 (編) (2010) 『現代日本語文法 1 第1部 総論 第2部 形態論』くろしお出版.
- 日高 水穂 (2002) 「ヴォイス(受動文を中心に)」『方言文法調査ガイドブック(大西 拓一郎 (編)科研費研究成果報告書)』.
- 益岡 隆志 (1987) 『命題の文法—日本語文法序説』くろしお出版.
- 三宅 登之 (2012) 『中級中国語 読みとく文法』白水社.
- 山田 敏弘 (2004) 『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版.
- 李 藝 (2017) 『現代日本語のヴォイスに関する研究—中国語との対照を交えて—』神戸市外国語大学博士学位論文.

## 中国語の参考文献

- 王 还 (1983) 〈英語和漢語的被动句〉(英語と中国語の受動文) 《中国語文》1983年 第6期. 409-418. 人民教育出版社.
- 白 晓紅・趙 卫 (2007) 《汉语虚词 15 讲》北京语言大学出版社.
- 李 宝贵 (2005) 《汉语精讲与自测》北京大学出版社.